

2023.12.17

子どもの貧困の連鎖を断つために ～困窮世帯への学習支援から見えてきた課題と必要な支援～

アスポート学習支援の現場から

彩の国子ども・若者支援ネットワーク 土屋匠宇三

アスポート学習生活支援員事業とは

家庭訪問

対象世帯を訪問し、教育相談・進路相談

- 家庭環境を把握
- 勉強や生活習慣の悩みを聞く
- 支援員と子ども・保護者との信頼関係、協力・協同

学習意欲を高めるために、子どもたちを学習教室につなげる。

学習教室

「わかる楽しさ」が実感できる学習環境

- 「学ぶ」ことで広がる世界、
- 子どもの良さを引き出す居場所
- 支援員やボランティアによるマンツーマン指導

子どもたち一人ひとりに合わせた学習支援に取り組む。



特別養護老人ホームをお借りして学習教室



なんでも質問できる学習教室



大学生ボランティアが丁寧に個別指導

校門の外で私たちが取り組んでいること

- (1) 「生活困窮者自立支援法」に基づく生活困窮世帯への学習生活支援事業
- (2) 埼玉県及び各市からの「委託事業」で、費用は全額、国と埼玉県及び各市
- (3) 事業内容
 - ① 学習教室の運営（100教室、小・中・高校生1900名、ほぼ、マンツーマン指導、無料、大学生ボランティア・元教員・社会人800名ほど）
 - ② 家庭訪問 12000回
 - ③ 学習教室での食事提供、体験、イベント（23教室、子ども食堂の方々の協力で毎週400食程度）
 - ④ 教育委員会、学校、SSW,民生委員、大学、農協・フードバンク・企業（食材提供など）、社会福祉協議会などとの連携
 - ⑤ 支援対象は生活保護世帯、ひとり親世帯、就学援助世帯など

「奇跡のきょうしつ」13年の歩み

<映像から>

- ☆ 中3で九九の復習ができるー誰も馬鹿にしない
- ☆ 「わかんない」と言える
- ☆ 自分だけのために2時間、隣に教えてくれる人がある
- ☆ 5年間わからなかった分数計算がわかったとき、涙が出るほどうれしい、世界が広がる
- ☆ 家庭訪問は「酸欠状態への外からの風」「暗いトンネルの中での光」
- ☆ 心の棘を抜くような対話、「自然な評価・励まし・共感」
- ☆ アスポートがあったから、高校進学、「孤独感」がなくなる

7 ^{がくしゅうきょうしつ} 学習教室 ^{さんか} に参加して、^{つぎ} 次のようなことはありますか。^{じゆう} 自由に ^か 書いてください。

①うれしかったこと 勉強がわかりやすい。
おやつが出てくること。
火曜日におにぎりが出てくること。

②こまったこと
ないです

8 ^{がくしゅうきょうしつ} 学習教室 ^{さんか} に参加して、「^{じぶん} 自分が ^か 変わった」と思うことはありますか。^{おも} 自由に ^{じゆう} ^か 書いてください。

コミュニケーションができるようになって学校でも友達 ^{ともだち} ができた。
アスポートの人がいなかった分ずっと一人だったのでたくさんの人にであえてよかったです
寺島さん、沖田さん、仲田さん、石幾山さん、土屋さん ^{くらいさま} いろいろな人にあえて本当によかったです。
ひとりぼっちだった自分を変えてくれたのもアスポート、勉強でかるところもふえて目かかっています。

「子どもの見守り強化事業」とは

新型コロナウイルス感染症の影響による長期間にわたる外出自粛によって、児童虐待等が増加することへの懸念に対処するため、「子どもの見守り強化アクションプラン」（令和2年4月27日子発0427第3号厚生労働省子ども家庭局長通知）の取組を一層推進することを目的に制定。



訪問時に提供する食品等を持っています

子どもとの面談を実現する工夫（1）

様々な企業からのご寄付を活用



お菓子や主食、副食も提供

サンタクロースの包装で
クリスマスを演出



子どもとの面談を実現する工夫（2）

子どもはぬいぐるみが大好き



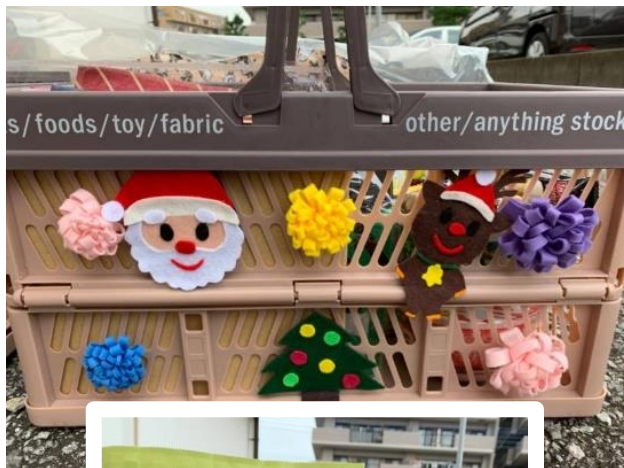
ドキドキお宝箱



ポプ

子どもとの面談を実現する工夫（3）

カゴの装飾（お楽しみボックス）



季節・流行に
あわせて



支援事例・効果(子ども編)

病院や公園への同行支援

定期検診を受診していない、予防接種を受けていない、といった保護者に対し、受診時期を一緒に確認していくことで、子どもの成長をサポートすることができます。また、外出が負担な場合は一緒に公園へ散歩に出かけるなどの同行支援ができます。



必要に応じた学習支援

子ども本人や保護者から要望があれば訪問先での学習支援も行います。この学習支援を通じて学力を高めることと併せて、学習支援により支援員と子どもとの信頼関係を築くことで、子どもからのS O Sを引き出す手段にも繋がります。

保育所申請書作成サポート

保育所入所のための申請書作成は、知的障害を持つ保護者や外国籍の保護者であっても、記載内容の確認は記載方法をサポートすることができ、子どもが保育所に入所することで日々の子どもの“所属”ができることで、子どもの変化をいち早く確認することができるようになります。



支援事例・効果(保護者編)

病院への同行支援

保護者が定期的な通院をしており、育児との両立が大変な場合は、保護者の通院のための同行も行います。保護者自身が健康であることは、保護者だけではなく子どもにとっても大切なことです。



転居に関する相談サポート

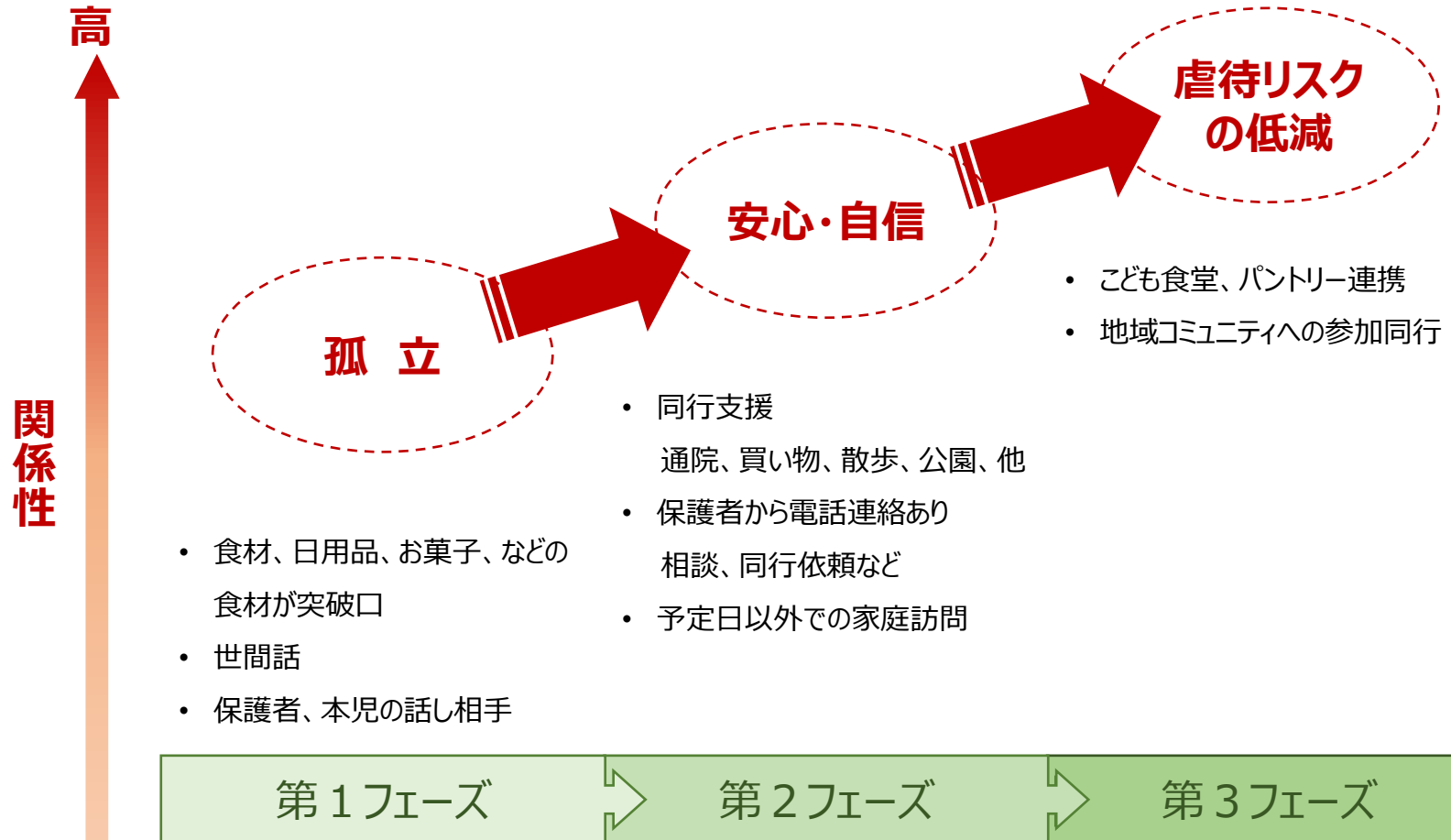
家賃を抑えるために転居したくても、保護者が知的障害をもっていたり学籍である場合は、不動産会社との交渉などが滞る場合があります。このような際に支援員が同行するなど、必要な手続きをサポートすることができます。

養育相談・料理作り

子どもの発達段階に合わせた養育が行われていない場合や、保護者自身が養育に悩んでいる場合に、悩みを聞いたり、子育てのアドバイスをするなど、保護者の育児ストレスを軽減することができます。簡単な料理レシピを紹介することも、保護者のストレス軽減に役立ちます。



関係構築から次のフェーズへ



Local Relationship Support （社会資源に繋ぐ支援）

子どもたちの願いー寄り添うとは

- 当たり前を押し付けない
 - 反射的に出る思いや感情をいったん置いておく
 - 心のチャンネルを相手に合わせる
- 可能性に目を向ける
 - 問題ばかりではなく、できているところに目を向ける
- ただ聴くだけの重さと難しさ
 - 最後まで話を聞いてほしい、わかってほしい、共感してほしい、気づいてほしい
 - 自分で考えたい、決めたい、地に足を付けたい
 - 大人の「話」「説教」を聞きたいという人はあまりいない
- 子どもの成長・発達は「固有」の時間がある
 - 現状への「不満」「苛立ち」「問題行動」を変化の芽生えとできるかどうか
 - 具体的「成果」が現れない、中途半端さに耐える大人の存在

<12年間の実践で学んだこと>

- 1 貧困問題の解決を行政が中心となり、地域の社会資源の潜在力を引き出した。
 - 2 現場に「出向く支援」でこそできる、世帯の実態に見合った支援の効果
 - 3 子どもの「幸福度」を高める実践の大切さー生きる希望につながる
 - ・身近な大人、大学生からの温もりのある声掛け、学習・生活・体験などの支援
 - ・学びの大切さ、知識をえる、問題がわかることで広がる世界、生きる意欲
 - ・仲間との交流、支え合いで自分の長所・課題を認識
 - ・生き方、人生のモデルとなる年長者、大人との出会い
- 自分が大切にされているという実感が自分を大切にする、身近な人を大切に
する意識を育てる